



たん と キ ャ ッ ズ あ お き は、お陰様で8月に開所 **5周年** を迎える事ができました。そして、法人としては4月に **20周年** を迎える事ができました。さらにさらに、前法人からだ と 4月で **25周年** を迎える事ができました。一重に、みなさまの温かい応援のおかげです。これからも、青木村周辺の障がいをお持ちの方々やその家族が笑顔でこの土地で暮らしていけるように尽力していきますので、これからも、応援よろしくお祈りします。

たん と キ ャ ッ ズ あ お き スタッフ 一 同

コラム ～ 最近始まったことではないですが、日本だなあと思うこと ～

先日、「来年の福袋の予約が始まりました！」という通知が届きました。福袋を買っているわけではないのですが、その通知を読んでいてふと思ったのですが、日本人って先取りというのか、生き急いでいるというのか。そんな気持ちになりました。日本人は働き過ぎと言われ、最近では働き方改革なんていう言葉も生まれて、働く時間が厳しく制限されている一方で、つぎからつぎへと前倒しの状況は加速しています。地域の行事や、祭事などには昔は30分前には行かないと終わっちゃうと言われていたのが、一時期、1時間ぐらい前になり、それはさすがにおかしいからと、私の地域では「時間通りに集合してください」という一言まで添えられるようになっていたのですが、福袋は年々加速しているように思います（笑）しかし、なぜこのような事が起きるのでしょうか？たしかに、商戦の中では、他より一歩早くというのが大きく影響はしていそうですが、そもそもその行動はなにが影響しているのか考えてみました。

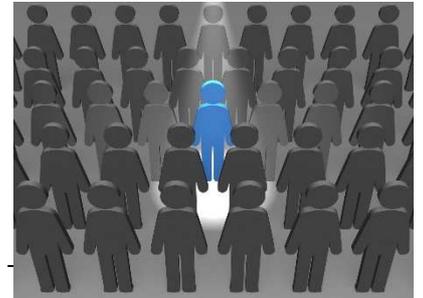
そこには、日本人特有の「集団心理」という考え方が影響しています。集団心理は日本人だけが持っているものではなく人間がもともと持っている考え方の一つですが、日本人は特にその行動が強く現れているようです。

「一人になりたくない」「他の人が…」という考えが、「〇〇は、福袋の販売もう始めたぞ」という気持ちに繋がり、それが毎年、加速しているのではないのでしょうか。

結局、福袋は12月になれば販売され、年を開ける前に来年の福袋を開けて楽しむなんて姿も当たり前前の光景になってきました。

実は、集団心理は良い効果も多くありますが、悪い効果もあります。周りの引っ張り、どちらかの効果を見出すことができます。

最近で、一番印象が強かったのは 新型コロナウイルスが流行り始めたころじゃないでしょうか？今となっては、大変な感染症ではあるものの、「あー、コロナにかかっちゃったんだ。お大事に」程度で済んでいます。最初の頃は近隣から非難され、その地域で生活することすら難しくなってしまうような事がありましたよね。今となってはバカバカしいことかもしれませんが、あの頃はまるで殺人者のようにみんなが思ってしまったのも集団心理の一つでした。地域の一体感も、地域での差別、全てに集団心理が関わっていることが想像出来ると思います。ぜひ、良くない集団心理の状況については、一旦考えてから行動したいと思います。



裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たん と キ ャ ッ ズ あ お き まで、ご相談いただければ対応いたします。

たん と キ ャ ッ ズ あ お き (NPO 法人たん と。)

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん と



あなたの知らない発達障がいの世界

小さい頃の体験は沢山すればいいの？

「三つ子の魂、百まで」という言葉をご存知ですか？Vol.3 でも少し触れている内容ですが、3年前の記事になりますので、改めてまた触れていきたいと思えます。

小さいお子さん、特に未就園のお子さんは人間が成長する中で一番多くのことを吸収するタイミングです。

楽しい体験、生活に必要な体験、親の姿・・・特に着飾る演技をする必要はありませんが、人としての個性を作り上げていく経験を積む基礎ができることです。それは、3歳までで終わることはありませんが、まず3歳までの成長過程の中で、基本的な能力の基礎をみにつけていきます。

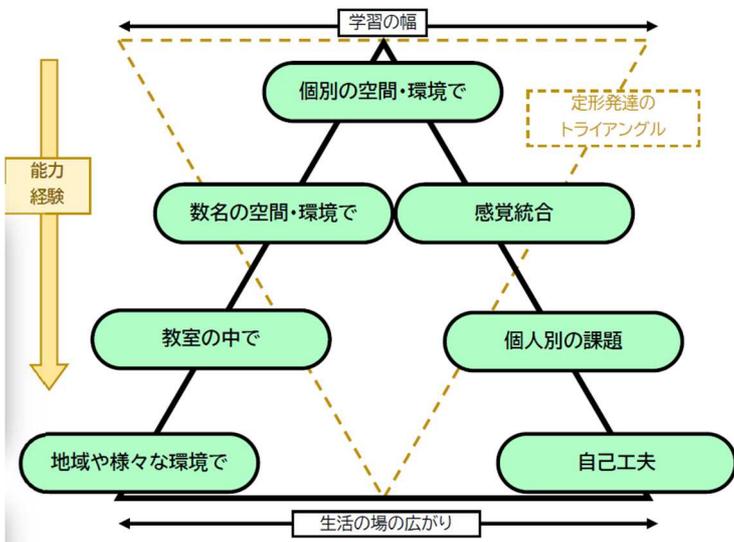


たんとキッズあおき パンフレットより抜粋

特に、いわゆる五感と呼ばれているものの経験を積むための基礎を組み立てていく大切な時期が未就園の頃、年齢だと3歳までの年齢になってきます。(ただし、個人差がありますので全員がとは限定しませんが)この頃に、多くのいわゆる「感覚刺激」を体験することで、その感覚の音量で例えるとボリュームが上がっていきます。さらに上がり始めた感覚を4歳からの体験で身につけ磨いていく経験を重ねていくことで、得意不得意が生まれてくると言われています。

とはいえ、闇雲に色々な体験をする事が全てではなく、通常であれば家族と一緒に楽しく過ごす中で自然と感覚が養われていき、さらに家庭状況や本人の行動により興味が増え関心が強い事を多く体験することで、得意分野が積み重なっていきますので、本来であれば気にすることはありません。

しかし、発達障がいのあるお子さんは生まれながら、興味関心に偏りが見られるお子さんが多く、経験を上手に積み重ねられないことがあります。そのため、周囲が興味関心を持つか確認をしながら、さらには日常生活においても必要な経験すら興味を持つことができず経験を重ねられない場合がありますので、一つひとつ丁寧に経験ができる場面を提供していく事が、将来成長した時に必要な能力を身につける事につながっていきます。



たんとキッズあおき パンフレットより抜粋

実際には、どんな工夫が必要なのか？といいますが、「一つひとつ大切に経験し身につけていく」ということです。出来ることを増やししながら、その中で経験を増やし、自分自身が好きな事や望む生活を見つけていくようになります。この考え方を、健常のお子さんが経験する流れを三角形（トライアングル）として上から下に小さくなっていくようなイメージ（多くの経験から、一つのことを見つけていく姿）だとすると、発達障がいのお子さんの場合は逆になるため三角形が反対になる逆三角形（トライアングルエフェクト）と呼んでいます。

図は、たんとキッズあおき のパンフレットに掲載しているトライアングルエフェクトですが、図のように、最初は刺激が少ない中で一つひとつの動作や過ごし方を身につけながら、次のステップにすすんでいくというのが、本人も大きな混乱や、自分自身が将来辛くなってしまうような習慣、感覚を身につける事が少なく成長しながら、自分らしい生活を送ることができるようになってきます。

どうしても「うちの子は・・・」「うちの孫は・・・」と他のお子さんと比較してしまいそうになりますが、そんな時こそ慌てず何が将来必要なのかを一旦考えて行くことが大切になりますね。